

20141008 U30 コミュニケーションスキル研究会議事録

「僕らの一歩が日本を変える。」

日 時：2014年10月8日（水）19:30-22:00

場 所：東京／池袋「バー クオーレ」

発表者：後藤寛勝さん

（大学生／NPO 法人僕らの一歩が日本を変える。副代表理事兼事務局長）

インタビュアー：福田一輝（U30 コミュニケーションスキル研究会会長、大学生）

参加者：参加者 13人（発表者除く）

（大学生、会社経営、プロレスラー、会社員、新聞記者、NPO法人理事長、  
社会保険労務士、行政書士・司法書士など）

1. どのような活動をしていますか？

若者が社会をおこして、明日をつくることをにビジョンに掲げています。若者と社会が共にポテンシャルを開花させる機会を創り出すことがミッションです。活動は主にイベントと地方自治体と連携した事業を行っています。①「高校生100人×国会議員」。年に2回、約160名超えの国会議員に来ていただいています。議員会館のはじからはじまでいって声をかけています。②「模擬選挙」。2013年の参議院議員選挙からネット選挙が解禁されました。しかし、選挙に若者の関心が向いているとはいえません。なぜ、興味がないのか？ 投票行動がネックになっているのではないかと。政治・選挙をクールにできないか？ これらの問題意識から、選挙を身近に感じてもらいたいと考えました。iPadを使ってワンクリックで投票できる仕組みを用いて全国の街頭で、インタビューで10代の10000票を集めました。現在は学校での出前授業も行っています。③「総理大臣になったら何をしますか？」。街にいる10代にもしあなたが総理大臣になったら何をしますか？という質問をかけます。社会への視点が一気にスケール・アップします。たとえば、東日本大震災の被災地の10代は「友だちの家を直したい」と答えてくれました。これをネットで発信しています。

東京からの発信をしています。しかし、全国で活動をしたいと考えても、なかなか伝わりません。地方には若者の政治意識を刺激するというようなところが少ないです。なぜでしょうか？小中学校での政治教育の進展のなさから作り出される雰囲気があると僕は考えています。学校で政治のことをお話すると、おかしいんじゃないか？ あやしいんじゃないか？と思われるからです。気軽に政治のことをお話することができる場所が必要です。そこで、④「僕一ハウス」も行っています。たとえば、マクドナルドの片隅で政治のお話し合いをしてこれを発信してもらいます。

社会に問題意識を持つ層は一部でしかありません。しかし、問題意識を持てば、自分から行動します。問題意識を持ってもらうために、また行動を促すために、エンターテインメント性が大切と考えています。

## 2. 最初の一步は？

「僕らの一步が日本を変える。」代表の青木さんからです。青木さんは中学3年生のときに、米国に留学していました。丁度そのころ、オバマ選挙が行われており、アメリカの若者の社会参加の現状を肌で体験をすることができました。日本に帰ってきて、日米の政治参加の差に違和感を憶えました。そこで、Facebook を使って、同じような意識を持つ高校生に声をかけたのが最初の一步です。

僕自身の一步は、上京したことです。地元の新潟でスポーツしかやってこなかった僕は、政治家を志して夢の舞台東京で戦いたいと思っていました。上京してからは政治家と会えるチャンスを見つけて話を聞きに行ったり、いろいろなところに顔を出したり、人に紹介してもらったり、もがいていました。そんな中今の組織に出会いました。

## 3. NPO法人にしたきっかけは？

「僕らの一步が日本を変える。」活動を2年半続けてきて、何ができたのか。国会議員を目の前にしてぶつけていけば何かが変わると考えていました。しかし、政治は社会問題解決の手段に過ぎません。国会議員とのつながりも手段に過ぎません。それよりも、若者が実際に社会や政治の中で主体的にアクションできる土台をこの日本の中で創ることが必要と考えました。そこで、若者による社会おこしを掲げることとしました。10年間で本当に社会を変えたい。なら本格的に政治や地域や学校や社会の中に入り込む必要があると確信しました。そのため仲間とNPO法人化しました。

NPO法人は地方自治体と連携して活動を始めています。若者の地方への定住促進を行っています。また、衰退する一次産業の復活に力を入れています。

## 4. つながりはどのようにしているのですか？（もともと6名から現在19名まで、どう増やしたのでしょうか？）

もともと6名はFacebookで集まりました。SNSの力はすごいです。合わせて、口コミです。また、学校の先生から紹介してもらうこともあります。

## 5. 10代、20代へのメッセージ

隣の人に、目に見えないものをどれだけ与えられるかが大切だと思います。

日本を変える社会を変えるといっても僕ら若者ができることは目の前のことに全力で取り組むことです。

## 6. 後藤さんの将来

8年後に、新潟市長になります。上京した時は大臣になりたいと考えていました。教育、社

会保障などの政策はこうでなくてはならないと大学の同級生に語っていました。しかし、同級生はポカンとするだけです。そんな中で、首長、地方議員との出会いがありました。あのバス停を移動するだけでもすごく手間がかかるということを教えてもらいました。町の人にお尻を叩かれながら成長している若い市長さんたちから衝撃を受けました。もちろん国会議員には憧れもあるし尊敬もしています。ただ、若者が社会と共に成長するには、まずは政治や政策、まちのことを自分事に落とし込めるのが大切だと考えました。街の人の目線を持つ首長になりたいです。若者とともに社会を変えたいです。

「僕ら一步が日本を変える。」は、地方自治体と連携したサマースクールを行っています。高校生がマニフェストを提言するというものです。重要な点はその提言を、提言した若者自身が実行をするということです。これを自治体の予算から行います。若者が政治や政策に関心がないのはなぜか？ 関心を持ってもらいたいことない、言っても反映されない。圧倒的に社会や政治に影響を与えたという経験をしたことがない。高校生の関心のなさはこれらが原因ではないでしょうか。5～6泊にて、座学にていろいろな人のお話を聴き、伝統を担う工場の見学などのフィールドワークを行っています。展望として、若者が地域の政治や政策に入っていくきっかけとなる必要があると考えています。

地域インターンシップ。全国的に空き家の問題が発生しています。ある地方自治体から若者の定住促進に使えないかという提案をいただきました。空き家を地域活性に使っております。若者が空き家で活躍して、街に必要とされる人材になれるプランと考えています。

模擬選挙。荒川区の中学校で開催しました。口がうまい候補者を演じました。進行とともに口がうまいだけのあの人に投票していいのかと気付くようになります。中学生からは選挙ってすごくおもしろいねという感想をいただきました。選挙権が18歳から持てるようになれば、これから政治教育が大切になります。選挙は身近であり、面白いということがわかれば、関心を持ってもらうことができます。模擬選挙は社会に影響をもたらすものとなるはずですが。

最後に、クリエイトとともに、ビジュアルを重視しています。中身はもちろん社会や政治という難しいものをターゲットにしている分見せ方にこだわっています。Facebookでも写真次第でいいね！が増えます。Facebookにて、情報発信をしているのでぜひチェックしてほしいです。

以上